

美肌菌ドック

- 世界初 皮膚常在菌の量・バランスを検査（表皮ブドウ球菌、アクネ菌、黄色ブドウ球菌）
- 問診による菌の増減に影響するスキンケア検査
- 厳密な検査環境管理化（学会基準）での肌質全般の機器検査

自己由来医療
自分の菌を
育菌・補菌

自分にあわない
化粧品を指導

適切なスキンケア
を看護師指導

様々な
皮膚アレルギー
反応を検査

世界初の皮膚常在菌量検査 = 美肌菌ドック

ヒトの皮膚上には常在する菌が存在しており、皮膚の健康に対する皮膚常在菌の関与が解明されております

※例えば表皮ブドウ球菌が少ないとグリセリン生産がすくなくなり肌がかさつく場合が多い
※アクネ菌がニキビを作るのは特定種のみ、菌数が少ないとPHがアルカリ側になりやすい

■主な皮膚常在菌

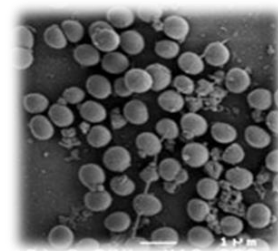
表皮ブドウ球菌
epidermidis

アクネ菌

黄色ブドウ球菌

マラセチア真菌

レンサ球菌

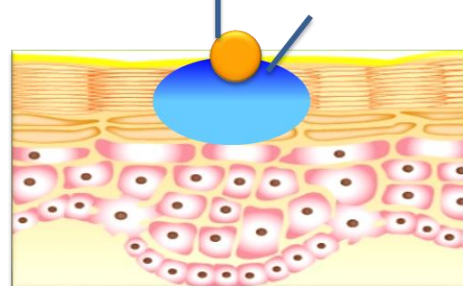
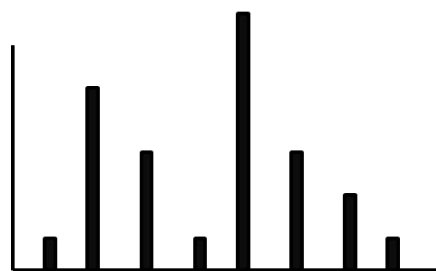


Staphylococcus epidermidis

= 美肌菌

常在菌バランス

常在菌は特定の菌が多すぎても少なすぎてもよくない事が解明。
菌のバランスが重要



※菌バランス検査による菌量の自由診療検査が可能に（世界初）

130項目の問診と21種類の検査にて構成

検査は看護師のみで実施可能（検査30分・指導15分）。医師検診時間は5分程度

No	問診分類	問診の概要
1	主訴	利用者の方の肌の主訴、悩みの確認
2	基礎情報	人種、年齢、性別等の基本的な情報
3	肌質	フォトスキントイプ分類や、自己認識における肌質の確認
4	生活習慣	生活習慣として運動、睡眠、喫煙、飲酒を確認
5	栄養状態	摂取水分量、水分の種類、サプリメントの摂取、食事状態、ダイエットの有無などを確認
6	スキンケア	洗顔回数・洗顔方法 サンスクリーンの使用 クレンジングの評価基礎化粧品、 化粧品の変更頻度 利用化粧品成分 美容的スキンケアの利用 その他美顔器等の機器の利用 などを確認 冷え性や自宅環境などの確認
7	血流	既往歴の確認
8	既往	既往歴の確認
9	生活習慣病	メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、MCIなどの状態から、高血圧、糖尿病等の生活習慣病関連の確認
10	アレルギー既往	既知のアレルギーの有無の確認
11	薬歴	薬歴の確認

No	検査項目	検査方法の
1	角質水分量	水分計での測定
2	水分蒸散量	水分蒸散量計での測定
3	油分	油分計での調査
4	メラニン量	スキンセンサーで測定
5	紅斑	スキンセンサーで測定
6	弾力	弾力計で測定
7	毛穴	マイクロスコープ検査
8	PH	PH計で測定
9	使用化粧品と禁忌成分	化粧品の成分確認
10	常在菌量	常在菌採取と培養検査など
11	湿疹・ニキビ等肌疾患	視診
12	しわ	視診
13	きめ	マイクロスコープ検査
14	しみ、あざ	視診
15	くま	視診・触診
16	血液 生化学	採血検査
17	アレルギーIgE	採血検査（種類を増やす場合にはオプション検査）
18	下肢血流状態	下肢の皮膚温度と動脈の触診
19	金属アレルギー	パッチテスト（オプション検査）
20	使用化粧品アレルギー	パッチテスト（オプション検査）
21	肌関連遺伝子	遺伝子検査（オプション検査）

スキンケアの勘違いを検診後に指導

- 化粧品を落とすために1日2回の洗顔は美肌菌をへらします
- アクネ菌はニキビの原因だから除菌！すると美肌菌も死んでしまいます
- 毎日の半身浴は美肌にいい？ 30分以上の水分への接触は角質を破壊
- 化粧品の防腐剤によっては美肌菌が死んでしまいます。その成分大丈夫？

美肌菌ドッグは安心の学会検診

ITヘルスケア学会
JAPAN ASSOCIATION OF APPLIED IT HEALTHCARE

本検診は公益データ収集を目的とした学会事業であり、ITヘルスケア学会の管理基準に準拠。収集データは統計解析の上、Open Data化を行います。（データの国内保持、セキュリティ、臨床内容、データ収集手順等を監修）

危機1

海外検査サービスの普及
（検査の海外発注）

危機2

主要国の健康データ
獲得競争

危機3

公益的
Open Dataが
存在しない

お問い合わせ先 皮膚常在菌担当 まで お気軽にお問い合わせください。

株式会社クリニカルパス 03-6383-5140

東京都杉並区上荻1-22-13-304